



人の目が、赤くなったりするのはなぜ

白目にある細い血管に、たくさんの血液が流れこむ

泣いたときなど、白目が赤くなるのは、白目にある細い血管に、たくさんの血液が流れこむからです。つまり、赤くなるのは、血の色のせいというわけです。

なぜ、泣いたりすると目の血管に、たくさんの血液が流れこむのかについては、まだ、完全にはわかっていません。泣いたりして神経が興奮すると、血がたくさん流れるらしいのですが、本当のところは、まだ、はっきりわかっていません。

顔が赤くなるのも、同じ理由から

好きな人に会ったときなど、顔が赤くなるのも、顔の皮ふの下の、たくさんの細かな血管が太くなり、血液の流れが増えるからです。ぎゃくに、こわい物を見たりして顔が青くなるのは、血管が細くなり、血液の流れが減るためです。

顔の皮ふの下の血管の数は、体のほかの部分に比べ、約2倍ほどあります。

そのため、血管を流れる血液の量の多少によって、顔の皮ふの色はよく変化するのです。

そして、この血管の太さを、広がせたり縮ませたりするのは、自律神経という神経で、自律神経に命令を出すのは、大脳です。また、自律神経には、交感神経と副交感神経の二つがあり、交感神経は血管が縮まるほうに、副交感神経は広がるほうにはたらきます。

自律神経は、わたしたちの意思では自由になりません。

しかし、わたしたちの精神状態（感情の動きなど）によって、影響されやすいという特徴をもっています。

ですから、好きな人を見たときなどの、ちょっとした感情の動きに対しても、すぐ、顔が赤くなったりするのです。（監修・保志 宏）

